

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271100582		
法人名	社会福祉法人 草雲会		
事業所名	グループホームあしたか		
所在地	島根県松江市東出雲町出雲郷490番地		
自己評価作成日	令和4年11月21日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 2/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和5年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道9号線から阿太加夜神社の参道に入った所にある和風平屋の古民家風の建物です。「葺高」の地名から「あしたか」と名付けられました。1ユニット9名の少人数で、顔なじみの関係が出来やすく、それぞれがその人らしく暮らせるよう支援しています。年々ご利用者の重度化が進んでいますが、暮らしの中で、趣味活動などのレクや書道を行ったり、その人が出来る事、洗濯物干し、たたみ、掃除などしていただく中で、共同生活の良さを実感していただいています。入浴は檜風呂で、ご利用者の状態に合わせて柔軟な対応をとっています。コロナ禍で制限はありますが、隣接する法人の特養、デイサービスと連携し、クラブ活動、行事などで交流を図ったり、社会貢献として実習生の受け入れを行い、様々な方と触れ合う機会を設け、充実感のある生活づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に沿って利用者のできる事やその人らしく暮らせるよう確認しながら笑顔のある支援に取り組んでいる。運営推進会議で現状を知らせ、コロナ禍でも、体力や話す力が低下しない様、家族との関係に工夫した支援について活発な意見交換がある。職員間で話し合い口腔体操や歌う楽しみに取り組み利用者の状況を把握し歩行訓練、転倒のない暮らしを目指し支援に繋げ、出た意見を運営に活かしている。地域との関係を大切にし職場体験学習の中学生を引き続き受け入れ交流している。ドライブに出かけたり、節目ごとの食事を提供し季節を感じ利用者の楽しみのある支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「ワンラブワンハート」、あしたか基本方針などを見えるところに掲げ、職員に対し意識付けを行うことで、理解し意識して行動できるよう努めている。	「主役は利用者」を意識し、思いをくみ取り今日は何がしたいか本人の立場でペースにあわせ、安心感や笑顔に繋げられる様支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で活動に制限があるが、学校、保育所等との交流、地域とのつながりを大切にしている。学生の実習の受け入れも行っている。	畑の野菜作りのボランティアがあるがこれまでのような交流は出来ていない。職場体験学習の中学生の受け入れをし、事業所と地域の繋がりの関係を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生や実習の方が利用者と交流する時に職員の方からアドバイスを送ったり、より深くコミュニケーションが取れるよう促したりすることで、認知症についての理解が深まるよう働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では家族の方だけでなく、地域の代表者や市職員もお招きし、活発に意見を出し合い、サービスの質の向上に努めている。また、会議録は職員にも回覧し、サービスの質の向上に反映させている。	運営推進会議で取り組みや状況を報告し、活発な意見交換をしている。でた意見をサービス向上に活かした支援に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	社協、包括、市の職員とは、東出雲地域ケア多職種ネットワークやらこい東出雲等で交流、意見交換を行っている。また、ケースワーカーと連絡を取ったり、包括や市に相談を行ったりし、関係構築に努めている。	日頃から担当者に事業所の取り組みや現状を伝えている。体験入居についての相談や利用料の質問等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、法人内外の研修を通して、身体拘束について学ぶ機会を設け、また現在行っている介護が身体拘束に当たらないか振り返ることで身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	研修会や身体拘束廃止委員会で理解をしている。身体拘束に発展しないか等、事例を通して学び意識した支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止検討委員会を設置し、法人内外の研修を通して虐待について学び、職員に周知徹底を図っている。また、着替え時、入浴時等で皮膚状態の観察を行い、異常、虐待の恐れについての早期発見に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等の機会を設け、成年後見制度や日常生活自立支援事業等について学ぶ機会を設け、実際に利用者の成年後見人と情報共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は身元引受人に書類や料金、準備品などの説明を丁寧に話し、質問にも丁寧に答えることで納得して契約して頂いている。また、料金改定の際も同意書を作成し、納得の上、署名、捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時に話をお聞きし、スタッフ会等でその内容について検討し、改善に努めている。計画作成担当者も利用者から意向の確認を取ることで、意見の反映に努めている。	利用者の体調や状況を家族に知らせ意見を聞く機会がある。利用者、家族の要望で体に合う押し車を購入し、体の痛みや歩行状態が良くなる等改善した事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会に所長が参加し、現場の意見を聞き、意見の反映に努めている。また、法人の取り組みとして業務改善提案制度があり、現場の意見を取り入れるよう努めている。	日頃から意見を聞く機会をつくり、出た意見の反映に努めている。休憩時間の取り方の提案を受け業務改善し、意欲向上に繋がり支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	所長や管理者は直接職員から要望をうかがったり、勤務体制について個々の要望を聞いたりと努力しているが、まだ改善の余地はあるように思われる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格が取得できるよう支援している。また、コロナ禍ではあるが、法人内研修、部署内研修を定期的に行うことで、知識の習得に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流が少なくなっているが、東出雲地域ケア多職種ネットワークやらこい東出雲等で勉強会を通して、連携強化を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族、ケアマネ等から情報を収集することで、新規の利用者の特徴を把握するよう努めている。また、初期段階において、密に職員間で情報を共有し、訴えにも耳を傾けることで、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の段階で丁寧に説明を行い、疑問にも的確に答えるようにし、サービスが開始されてからの疑問に対しても、丁寧に対応することで、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何を必要としているかの把握を常に行い、物品等で足りないものがあれば家族様に連絡し、用意して頂いたり、購入しても良いか伺い、快適な生活環境の構築に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が重度化してきてはいるが、その中で洗濯物たたみや干し、盛り付けの手伝いなど、できることはして頂き、グループホームが生活の場として、職員と利用者が共に歩める環境づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診など手伝って頂けるところは手伝って頂き、その際に近況も報告し、足りない物があれば購入の依頼の相談等することで絆が途切れないよう意識している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で制限はあるが、窓越し面会、オンライン面会等さまざまな方法で本人と会える機会を設け、関係が途切れないよう努めている。また、かかりつけ医もそのまま引き継いでいただけるよう努めている。	窓越し面会やオンライン面会、受診後、家で昼食を共にする等家族と合える機会を工夫している。地域の名所にドライブする等、関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格の不一致などあるが、トラブルとならないよう職員が間に入ったり席を考慮したりし、誰もが仲良くそして気持ちよく過ごして頂けるよう常に気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養入所などで契約が終了すると、それ以降の関係が途切れる傾向にあるが、できる限り顔を見せに伺ったりし、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉や表情から思いを汲み取り、また、計画作成担当者が要望を伺ったり、希望の暮らしに近づけるよう、スタッフ間で協力しながら支援を行っている。	ゆっくりした明るい声かけで接し、何げない会話の中から思いや意向をくみ取っている。家事仕事等その人の出来ることや習慣を把握し継続しながら、本人本位に検討し支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネから情報提供してもらったり、家族から情報を聞いたり、本人との会話の中で得られた情報を職員間で共有し、その人らしい生活が送れるよう支援につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で現状を把握し、少しの変化も見逃さないようにし、職員間で話し合いを行いながら状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は本人、家族から希望を伺い、担当スタッフからも情報をもらい、現状に即した計画書が作成できるよう努めている。また、月に1回モニタリングを行い、サービスが適しているか評価を行っている。	家族に利用者の状況を知らせ意見や要望を確認している。利用者のやりたい事、出来る事を職員間で話し合い現状に即した介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、実践したケア、特変事項などを個人記録に記入し、職員間で共有している。また、重要事項は別の連絡ノートを用意し、スタッフに漏れなく伝わるよう周知徹底を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のために何が一番良いか常に考えるようにし、実践に結び付けている。例えば家族が受診に行けない時には職員が代行するなど、柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握はやや不足しており、特にコロナ禍ということもあり、外部との連携が滞りがちではあるが、後見人や福祉事務所と連携を取ったり、消防団に非常時の対応の確認を取ったりと、努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、入居されても在宅時のかかりつけ医をそのまま継続し、定期受診も家族様の協力を得ながら実施することで、かかりつけ医と関係が途切れないよう支援している。	希望のかかりつけ医に家族が同伴し受診して関係者と情報を共有し連携をとっている。夜間時も適切な医療が受けられる様支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在当事業所に看護師はいないが、何かあれば隣接のデイや特養の看護師に相談、協力をお願いしている。特変があれば主治医に相談体制をとって、利用者の安全確保に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供書を送付し、病院関係者、相談員等と情報交換を的確に行っている。退院時にもカンファレンスに参加することで、病院関係者との信頼関係の構築に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所は看取りを行っていないため、契約の段階でそのことの説明を行い、重度になった場合は特養への申し込み等を提案し、アドバイスさせていただいている。	契約時に事業所で出来ることを説明し家族と共有している。利用者の状況に合わせ、関係者と話し合い重度化になった場合の対応について確認して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、法人研修で行われる救急手当講習に参加し、心肺蘇生法、ADLの使用方法を学び、緊急時に対応できる知識、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の消防避難訓練を年2回、水害時の避難訓練を年1回行っている。火災時、水害時とも隣接の特養からの応援をお願いし、利用者の安全確保に努めている。	利用者と一緒に避難訓練を行い、職員も初期消火の意識付けや避難経路の環境整備をしている。夜勤時にマニュアルを読み返し対応出来る様意識して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人を尊重し、さりげない言葉かけや対応を実施している。申し送り時に接遇の読み合わせ等を行い、言葉かけや対応について日々意識しながら対応している。	高齢者虐待の研修で学び利用者の自尊心を傷つけない対応に努めている。状況にあわせ丁寧に同じ言葉を繰り返したり、接遇の読み合わせで言葉づかいなど意識し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と職員との関係を良好に保ち、希望を言いやすい環境づくりに努めている。普段の会話の中からも本人の思いを汲み取り、ニーズの把握に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか希望に沿えない現状はあるが、その方のペースを尊重し、できる限り配慮している。希望に添えない場合も、きちんと説明を行い、納得して頂くようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日朝と夕にできる方は着替えを行い、メリハリをつけている。着る衣類もできる限り本人様の希望をうかがい、気温により職員の方で調節することもあるが、その時はその人らしさを損なわないよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お茶の葉詰めなどできる限り手伝ってもらえるところは手伝って頂き、また本人の嗜好に合った食事を提供することで、楽しみとなるよう努めている。職員も一緒に食事することで、会話も弾み良い効果が得られている。	希望の献立や敬老の日にお店の総菜を利用者が選び弁当にし工夫し楽しんでいる。正月、節分、七夕等節目に合った食事で季節を感じ、利用者も出来ることで参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の咀嚼、嚥下機能に応じて、粥、ミキサー食、キザミ食にトロミなどを使用し提供し、少しでも多く摂取して頂けるよう職員がそばで声かけも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。できるところははして頂くが、できないところ、不十分なところは職員が介助し、夜間は義歯を消毒につけるなども行い、口腔内の清潔が維持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合った方法で統一し、排便間隔などの記録も取り、スタッフ間で情報を共有しながら支援している。できる限り本人の残存機能の維持を図り、オムツ類も本人に合ったものを使用するようにしている。	排泄パターンを把握し、コミュニケーションを大切にトイレでの自立した支援をしている。夜間は腰痛の利用者など、状況に合わせてポーターブルトイレを使用する人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を取り、ヨーグルト、冷牛乳、コーヒー等の摂取や、食事の工夫をすることで便秘解消に取り組んでいる。時には主治医に相談し、緩下剤を服用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なかなか個別に沿った支援というのが難しくもあるも、個々の状態をチェックし、体調に合わせて入浴して頂いている。午前にレクリエーションをして頂いたときは、午後に入浴するなど柔軟な対応をとっている。	入浴時は利用者の健康把握や個別で話をしているいい機会にしている。同性希望者に対応したり、タオルを利用し羞恥心のない様に工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具や室温の調整を行ったりと居室環境を整え、パジャマを着る習慣のある方はパジャマに着替えることで良眠て頂けるよう努めている。利用者によってはテレビを見て頂いたり、自由に過ごして頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	どの薬を服用しているかすぐ分かるようにフェイスシートに入れ、職員間で情報を共有している。服薬方法も粉剤にしたリスプーンを使用したりと一人一人に合った方法で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	若干のマンネリ化はあるも、書道や散歩、趣味活動など、本人に合わせたアクティビティが提供できており、気分転換が図られるよう努めている。立位の安定している方は立位体操も取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出はほとんどなく、コロナ禍で外出機会も減少しているが、その中でも散歩や日光浴などの機会を設け、心身ともにリフレッシュして頂けるよう努めている。	行事に計画して名所の干し柿を見に行ったり、紅葉、桜の花見、神社巡りなど出かける支援をしている。天気に合わせベランダでお茶をし日光浴を楽しむ時間に努め取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は基本本人元引受人が管理し、小口現金として一部を管理しているが、お金を持つことで安心される方は財布を持たせている。また不足しているものがあれば、こちらで必要品等の購入支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は取り次ぎ、お話をしている。希望の方には携帯電話の持ち込みも了承している。年末には年賀状を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木造平屋建てで落ち着きがあり、季節の飾りや花等で季節を感じて頂けるようにしている。席の配置、室温にもこだわり、馴染みの音楽を流すことで、居心地の良い居場所作りに努めている。	廊下やホールに利用者の習字の作品や干支の飾りで、クリスマスツリーや花を飾って季節を感じる工夫をしている。温度湿度の調整、音楽で居心地良く過ごす工夫した空間づくりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士で会話がはずんだり、逆に利用者同士でトラブルが起こらないよう、常に気を配り、職員間でも情報を共有しながら席決めを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に馴染みのものを持ってきていただくよう家族様にお話しし、その後も家族と連絡を取り合いながら、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	利用者、家族と相談し使い慣れたものや写真を持参している。職員とゆっくりと話したり、その人に合わせた居心地の良い居室となる様取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの施設で、転倒防止を図っている。また、利用者に向けた歩行器や押し車を使用していただき、安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		